

三木市の小中一貫教育

三木市教育委員会

～教育の視点が変わります！ 義務教育9年間をつなぎ、見守り支える小中一貫教育へ～

令和4年7月

義務教育9年間をつなぎ、見守り支える小中一貫教育へ！

1 教育の視点が変わります！

従来の小学校6年間、中学校3年間という枠組みから、義務教育9年間を一体的に捉えた新たな視点で、つながりのある教育を進めていくことが求められています。

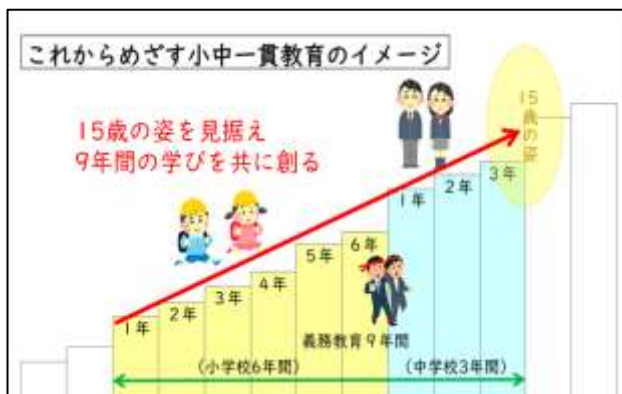
三木市では、このことを受けて、今まで取り組んできた小中連携教育（小学校教育と中学校教育の円滑な接続をめざした教育）を発展させ、9年間を見通し、系統性と連続性をもった指導に取り組んでいきます。小・中学校の各段階において、それぞれが責任をもって教育活動を行うことに変わりはありませんが、学校間の連携協働のもと、さらなる教育の充実を図ることを目的として、すべての小・中学校で小中一貫教育の導入に向けた取組を進めていきます。



2 三木市における小中一貫教育の目的や方策について

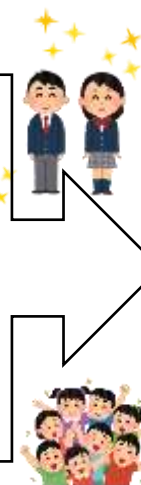
(1) 小中一貫教育の目的とは？

小・中学校教員が児童生徒の良さや課題を共有し、成長段階に応じて適切に指導にあたることで、三木市の「めざす15歳の姿」の実現をめざしていきます。



期待される効果

- 学習習慣の定着
- 学習意欲の高まり
- 生活規律の定着
- 生徒指導上の課題の解決
- 異学年交流の促進
- 人間性の育成



三木市の「めざす15歳の姿」

- 自ら考えて行動する子
- 協力し合って成し遂げる子
- 新たな価値を創り出す子

(2) どうやって取り組んでいくの？

①9年間の学習内容の系統性を踏まえたつながりのある指導の実施

小・中学校教員が学習上のつまづきやすいポイントを共有し、長期的な視点に立ったきめ細かな指導と一人一人の目標に応じた適切な指導を行うことによって、「学力向上」をねらいます。

②小・中学校の連携協働による「安心感」のある一貫性をもった生徒指導の実施

多感な思春期を迎え、いろいろな悩みを抱えている子どもには、学校間で情報共有を強化し、児童生徒に寄り添った指導を通して、安心して学校生活が送れるようサポートします。

③学校環境の変化の緩和

学校環境の変化を緩和する取組（児童生徒間や教師間の交流等）や小・中学校での効果的な指導方法などを共有することで、「環境」の変化や「学び」への不安の軽減を図っていきます。

裏面に続く

3 なぜ、小中一貫教育なの？

全国の先進地の実践例や調査結果などから、小中一貫教育が求められる背景についてまとめました。

背景① 以前よりも学習内容が増え、さらに新たな分野の指導内容が加わってきたこと



教育内容が多岐にわたり、より専門的な学習活動が増えてきた。しっかりと「未来を生き抜く力」をつけていきたい。



・小学校での外国語(外国語活動)の指導をはじめ、プログラミング教育等が導入され、長期的な視点で小・中学校の教員が連携する必要が出てきました。

背景② 身体や心の発達が早まってきたこと



中学校での課題とされていたことが、小学校段階から現れるようになり、小・中学校間の連携が重要です。9年間で子どもたちを見守っていききたい。



・昭和20年代前半と比較し、身体の高成長のピークが2年程度早まり、心理面にも影響を与えることがあります。



小学校4~5年に発達上の段差(10歳の壁)

背景③ 小学校と中学校の接続期における心理的なサポートが必要になってきたこと (いわゆる「中1ギャップ」や「小中ギャップ」への対応)



学校生活や学習面で課題が出てきても、充実したサポートをしていきたい。



・中学校進学時には、学習内容や学校環境の大きな変化により、不登校やいじめ、暴力行為の増加などの課題が現れてくる可能性があります。

背景④ 集団の中で、友だちとうまく関わるための基礎的な力(社会性)を育てる必要性が出てきたこと



人との交流や関わりが少なくなりつつあるからこそ、豊かな人間関係づくりを進めていきたい。



・家族や地域とのつながりの希薄化が見られるとともに、インターネットを利用する時間が増え、対面によるコミュニケーションの機会が減りつつあります。

背景⑤ 学校を取り巻く課題が多様化、複雑化してきたこと



課題に対して、十分な対応をしていくためには、学校間のさらなる連携協働が必要です。



・特別な支援を要する児童生徒や不登校児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒が増加傾向にあります。



三木市では、小・中学校教員の連携協働のもと、子どもたちの夢や希望の実現に必要な力を「9年間の小中一貫教育」で育てていきます。